

令和4年度東京都立飛鳥高等学校全日制課程 学校運営連絡協議会報告書

1 組織

(1) 都立飛鳥高等学校全日制課程 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成 事務局長 総務国際交流部主任

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部・生徒部担当）、
総務国際交流部主任、キャリアガイダンス部主任

(4) 協議委員の構成

保護者代表1名、地域代表1名、関係諸機関4名、近隣中学校長1名、学識経験者1名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の日時、出席者、内容、その他

○第1回 令和4年 6月 3日（木） 書面開催

学校長挨拶～委員委嘱、委員紹介、学校運営連絡協議会の概要説明

学校経営報告および学校経営計画について、年間の予定および目標等についての説明

○第2回 令和4年11月28日（月） 書面開催

学校の状況についての中間報告、学校評価アンケートの実施について等

○第3回 令和5年 2月15日（水）15:30-16:50 内部委員7名、外部委員8名

計画達成状況及び各分掌より年間まとめの報告、学校評価アンケート結果について分析考察等の報告、アンケート及び学校運営に対する提言の依頼

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

ア 令和4年度学校経営計画の達成度

イ 学校の取り組みへの理解

ウ 学校運営について

学校の特色、開かれた学校づくり、生活指導、進路指導、授業、特別活動、
施設、設備、地域との連携等

(2) 学校評価アンケートの対象・実施時期・回収率

対象	実施時期	対象者	回答者	回収率
生徒	12月中旬	653名	631名	97%
保護者	12月中旬	653名	311名	48%
地域住民	12月～1月	100名	20名	20%
教職員	12月中旬	50名	50名	100%

(3) 主な評価項目

・生徒及び保護者アンケート

学校生活の満足度、学校の特色の理解、開かれた学校づくり、授業、生活指導、進路指導、保護者との連携、教育活動、健康管理、施設設備、広報活動、コロナ禍における教育活動について、ライフワークバランスの推進

・地域アンケート

生徒の学校生活、開かれた学校づくり、学校の特色化、教育活動、校地の整備、地域との連携、広報活動、コロナ禍における教育活動について

・教員アンケート

学校運営、特別活動、生徒指導、授業、施設設備、広報活動、コロナ禍における教育活動について、ライフワークバランスの推進、その他

(4) 評価結果概要

・生徒、保護者に対するアンケートでは、

ア 飛鳥高校に対する満足度（肯定的な意見）について、生徒の 75%以上、および保護者の 85%以上から肯定的な回答が得られた。昨年度よりも数値が上昇し、生徒、保護者の見方・価値観が肯定的に変化してきた表れと捉えることができる。

対象	質問	満足度(R4)	満足度(R3)
生徒	飛鳥高校に入学してよかった	76 %	72 %
	本校での生活は、自分の将来にとって有益である	80 %	77 %
保護者	子供を飛鳥高校に入学させて良かったと思う	85 %	82 %
	本校での生活は、生徒の将来にとって有益である	88 %	84 %

イ 生徒、保護者、教職員の回答内容はほぼ一致した傾向となったが、「準備をして授業に臨んでいるか」については、肯定的な回答をした生徒が 80%であったのに対して、教職員は 50%と評価が分かれた。

ウ 学校改善のための意見としては、生徒からはトイレ、ロッカー、更衣室、校内の照度、学校建屋、保護者からは授業内容、オンライン授業（Classi 等）に関するものが多かった。

・教職員に対するアンケートでは、以下の 4 項目で肯定的回答の割合が比較的低かった。

質問	肯定的回答(R4)	肯定的回答(R3)
生徒は準備をして授業に臨んでいる	50 %	54 %
校務の運営において、分掌間の連携が図られている	60 %	65 %
学校の施設・設備は教育活動に有効に活用されている	60 %	
生徒の自己管理能力を育成できている	64 %	77 %

・地域に対するアンケートでは、以下の様な回答が得られた

質問	肯定的回答(R4)	肯定的回答(R3)
日常の教育活動に、地域社会の意見や要望が取り入れられている	63 %	63 %
飛鳥高校は、地域の活動に協力している	44 %	56 %
飛鳥高校の生徒はきちんと挨拶する	50 %	50 %

・アンケートの回収率については、教職員 100%、生徒 98%に対して保護者 54%、地域 20%であった。

(5) 協議委員アンケートからの意見・提言等

・飛鳥高校の開設当時から本校のことを知っているが、本校のブランディングが必要。具体的には、①単位制高校としての PR、②探究型学習の勧め、③課題解決型授業、④内発的動機付け・ホームカミングデーを参観したが、生徒の「やる気」がとても感じられた。

- ・飛鳥高校が各地域の中学生の進路先の逃げ場となっていて、重要な高校との認識。
- ・他校の例も参考にして、生徒が自ら探究する意欲を掻き立てる授業展開を。
- ・校則については、現在のもので安堵している。

4 成果と課題

(1) 得られた成果

- ア 学校の取り組み、特にコロナ禍の中での教育活動の成果が評価された、
- イ 生徒部を中心に学校全体で取り組んでいる校則の見直しや進路部の新たな組織的取り組みが評価を受けた。
- ウ 2年連続で国際交流について殆ど実施できず、飛鳥高校の特色を活かす機会に恵まれなかった点について、一定の理解を得られた。

(2) 明らかとなった課題

- ア 保護者への情報提供をする際、生徒を通じて紙媒体で周知する場合、Classiを通じて周知する場合があり、情報が届かない場合がある。
- イ どのように本校の良さをアピールし募集対策を行うかが課題である、
- ウ ネットを介してオンラインで実施可能な国際交流を模索するべきである。
- エ 生徒がスマートスクール端末を購入しているので、「対話的な深い学び」に向けて、教員は確実に取り入れるべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ア Classiによる情報提供の手段を周知し、保護者全体へのきめ細かい情報提供を行う。
- イ ホームページやTwitterの更新を迅速、積極的に学校の様子を中学生や地域にも知らせていく。
- イ 地域の方々や地域の機関・施設との連携を強化し、地域に応援される学校作りを行い、地域からの受検者の増加を図る。
- ウ 学校説明会、学校見学会、授業公開を充実させる。入学者選抜受検応募者増を目指す。
- エ アメリカやフランスの高校との交流事業を復活・発展させ、本校の特色である国際理解教育をさらに推進する。

(2) 学習指導

- ア 学力検査や「学力スタンダード」による学力調査、「生徒による授業評価」等の結果を教科内で分析・共有し、教科ごとの到達目標の設定及び改善策の検討を行い、組織的に授業力向上を図っていく。
- イ ステップアップ指導と家庭学習時間を確保するための新たな方策を実施していく。
- ウ 校内研修、他校の授業参観等を活用して授業改善に取り組むとともに生徒の自主学習を推進していく。

(3) 特別活動

- ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通して、生徒が自己の役割を自覚し、主体的に活動できるよう指導する。
- イ 国際理解を深め、進んで平和な社会の実現に貢献することができるよう、創意工夫した教育を進める。
- ウ 部活動の参加を推進し、生徒の能力・意欲・感受性を伸長させ、社会人として必要な、互いに協力して

忍耐強く努力し責任を果たす力を育成する。指導計画に基づき体罰根絶の取組を行う。

(4) 生活指導

ア 校門指導や頭髮指導などを通して、基本的な生活習慣を確立させ、身だしなみやルール・時間を守るなど、社会人としての常識や規範意識を身に付けさせるとともに、多様性を受け入れる寛容な姿勢も育てていく。

イ 未然防止や予防的指導を充実させ、生徒が安心・安全に充実した学校生活を送るための指導を推進する。

ウ 奉仕体験活動をはじめ、多様な社会貢献活動を、家庭や関係機関と連携して行う。

(5) 進路指導

ア キャリア教育の全体計画に基づき計画的・組織的な進路指導を行う。

イ 模試を有効に活用し、事前事後指導や結果分析会の継続開催し、生徒の進路実現に向けた指導に活用する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人／9人中

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	1				4	

7 その他

・全3回の学校運営連絡協議会のうち、第1回と第2回は書面開催とした。第3回は対面で実施したものの、御欠席の外部協議委員については、今年度一度も来校する機会がなかった。

・第3回学校運営連絡協議会はホームカミングデーと同日開催とし、外部協議委員の方に本校の生徒の様子を見ていただく機会を提供できた。